


サウジアラビア王国		首都	リヤド
 <p>緑はイスラム教の聖なる色で、アラビア語で「アラーのほかには神は存在しない。マホメットは神の予言者である」とコーランの一説が染め抜かれている。文字の下は剣で、聖地メッカを守護する意味をもっている。</p> <p>独立：1932/9/23 英国より 国連加盟：1945/10/24 政体：君主制</p>	国の概要	国土	面積 215 万km ² (日本の約 5.7 倍) アラビア半島の8割を占め、国土の大部分は西高東低の高原で、北部にネフド砂漠、南部にルブアルハリ砂漠が広がっている。硬い岩盤の上に砂礫が薄くのっている土地で、砂漠の中に禿山が連なっていることも特色である。西部には紅海沿いにヒジャーズ山脈が走り、南部では、3,000mに達している。
		人口	2,460 万人
		言語	アラビア語 (公用語)
		通貨	サウジ・リアル
		気候	海岸部は高温多湿であるが、内陸部は典型的な大陸性の砂漠気候で、夏季には 50℃を超える酷暑、冬季には氷点下になることも少なくない。
		民族	大部分がアラブ人
		宗教	イスラム教 100%
教育制度の概要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校 6 年 (5 歳 7 ヶ月～12 歳)、中学校 3 年 (13 歳～15 歳)、高校 3 年 (16 歳～18 歳)、大学 4 年制である。 ・インターナショナルスクールや民族学校 (ブリティッシュ・ジャーマン・コリアン・日本人) がある。 	
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校 6 年・中学校 3 年の 9 年間である。 ・その年の新年度開始日までに、満 5 歳 7 ヶ月になる者は、慣習として第 1 学年に入学することができる。就学を希望する子どもの親は小学校入学希望を申請することになっている。 ・大学を除くすべての教育段階で公立(王立)校と私立校があり、どちらに入学するかは親や子どもの選択による。 ・公立校は小学校から大学まで一貫して授業料は無料 (テキストなどが有料の場合もある) である。 	
	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・学校年度は 9 月中旬～6 月中旬であるがイスラム暦のためはっきり決まっていない。 ・2 学期制を採っており 1 学期は、9 月中旬～12 月中旬、2 学期は 1 月中旬～6 月中旬となっている。 ・公立校はイスラムの教えに基づき男女別学、別施設、教員 	

	<p>も男女別である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育省より公立私立を問わず全校に、必修科目としてアラビア語、サウディ・アラビアの歴史、イスラム教コーランの音読暗唱が課せられている。 ・公立校では、アラビア語は小学校 1 年生、英語は小学校 6 年生から学ぶ。 ・私立校では学校によって小学校 1 年生より英語・フランス語を学習するところもある。 ・カリキュラムには、イスラム教・コーランの授業が多く取り入れられている。 ・女子校では体育の授業はなく、家庭科が加わり、音楽は男女共にないが、国語の授業の中に歌を多く取り入れている。 ・イスラム教では偶像崇拜が禁じられている関係から、人物像を作ったり、描いたりすることは出来ないが、抽象画や工芸作品は認められている。
義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・高校は 16～18 歳の 3 年間で中学校の卒業試験に合格すると高校へ進学できる。 ・大学は全てが王立であり、サウディ国籍であること、高校を卒業していること、その上で志望大学・学部に進学する際は、毎年初夏に行われる全国一斉テストで好成績を収めることが必要となる。政府は大学生を対象に奨学金を支給している。
就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・義務ではないが、対象は生後 2 ヶ月から 6 歳までで、ほとんどが私立である。費用は施設により異なり、大きめの一軒家や小さめのコンパウンドといったものが多い。ランチなしのところが多いが、ほとんどがスクールバスを持っている。 ・プレスクールと呼ばれ、英語教育・体育教育に力を入れている。 ・就学前にアラビア語の読み書きができていたのは当然という考えがある。しかし、「お受験」や「習い事」の概念はない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・政府が教育の普及に力を入れていることと人々の教育熱があり、ほとんどの子どもが小学校に入学するようになった。教育熱が上昇したのは、高学歴の方が就職に有利になるという状況が、近年の不況と若者の人口増加によって顕著になったためである。 ・あまりにも競争心が無く、経済的にも恵まれすぎているた


		<p>め、危機感が全くといっていいほど無い。学業に対する情熱も低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部の成績優秀者は宗教家へと成長していくのが国是なので、経済界に進出させたいと思う親は、欧米への留学をさせることが多い。 ・外国人が 15 歳以上の子どもの滞在が認められないので、他国へ行くか、帰国しなければならない。
学 校 生 活	休業期間	・夏休みは 6 月 26 日～8 月 31 日で、ラマダン休暇は 1 カ月である。
	学級担任制、 教科担任制等	
	飛び級、落第の有無	・欧米型教育のため、採用されている。
	教育内容の差異	・全ての基本はイスラム教で、教義に則った教育課程の作成や授業展開がなされている。
	学校行事の特徴	
	給食	・カフェテリア形式で、始業前からオープンしている。
	チャイムや号令	
	教室における行動様式 等の違い	・個人中心だが、教師の指示には集団で従う。特に教師は宗教上の聖職者でもあるので、反抗のみならず、意見等も絶対に許されない。
	校則	<ul style="list-style-type: none"> ・男子はサウジアラビア式のトウヴ、女子は灰色の着衣、さらに校外では黒のアバヤを着用する。 ・社会的ルールとして、イスラム社会の常識に従う。逸脱はアラー（神）が見ているので、許されない。
保護者の授業参観、保護者会、PTA	<ul style="list-style-type: none"> ・10 歳以上は男性・女性別行動で、娘、息子といえども、異性の親族への参観はありえない。 ・教育は宗教的指導者である教師（聖職者）が行う事業であるので、全面的に信頼しなければならない。 	

	子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> ・朝は 7:00~7:30 頃に登校し、スナックタイムを入れて、午後は 14:00~15:30 頃に下校する。 ・部活動の概念はないので、その後は全くの自由時間である。 ・放課後や木・金にスポーツを特別に習う子どももいるが、イスラム教の習慣は遵守される。(夕方 2 回・夜 1 回の礼拝、金曜日は礼拝日など) ・テレビが普及し、家族団らんの手段として用いられている。 ・夜の礼拝後に家族で街に繰り出し、未就学児が明け方近くまで、親と共に行き来するのを見かける。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の生活と比べると、1 日の生活が非常にゆったりとしているため、生活習慣が慣れるまでには相当の期間が必要と思われる。 ・時間を守るという概念があまりない。(遅刻・待つ)
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	・部族毎に異なるアラビア語を使用しているので、共通語は英語またはイスラム語(コーランで使用されている文語アラビア語)である。
	宗教上の忌避事項	<ul style="list-style-type: none"> ・全てイスラム教に則り、特に大切なのは 1 日 5 回の礼拝で、この時間と機会は尊重しなければ、失礼にあたる。 ・豚と犬は食べない。 ・酒類(味醂も含む)は禁止である。
	指による数え方 計算方法の違い	・暗算が基本のようである。
	食生活	・代表的な伝統料理は、カプサといい、羊の肉汁で炊いたピラフの上に羊の肉をのせ、大皿の周りに車座になって座り、右手でごはんを握って食べる。
	衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・男性は部族毎に異なる白装束(呼び名も部族毎に異なる)、女性は 10 歳以上になると黒装束(アバヤ)を着用する。不着用だと宗教警察により注意を受けることがある。 ・男性でも短いズボンをはかず、女性は手首以外が男性に見られるのを好まず、暑くてもミニスカートやノースリーブさえも着ない。 ・昔ながらのレンガづくりの家屋のそばに近代的なショッピングモールが建っている。 ・住居で布団を使用する部族もある。 ・遊牧者(ベトウィン)は戸外に居住し、定住を好まない。
	交通規則の違い	・車は右側通行で、対面信号が赤でも右折することができる。

	<p>制限速度や車線は守られていないことが多い。交通事故はほとんど無い。舗装された道路のそばをラクダがのんびり歩いていることもある。</p> <p>・女性には運転免許は交付されない。自転車の走行も禁止されている。</p>
その他	<p>・日本に対しては、自動車産業やハイテク産業が発達した国、独自の文化を持った国、物価の高い国などといったイメージを持っている生徒が多い。</p>

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・リアド日本人学校（月刊誌「海外子女教育」）・・・・・・・・海外子女教育財団
- ・ジェッダ日本人学校（月刊誌「海外子女教育」）・・・・・・・・海外子女教育財団
- ・日本語指導教員より

シンガポール共和国		首都	なし（都市国家）
 <p>赤が全ての国民と人類の平等、白は純粋性、5つの白い星は自由・平和・進歩・平等・公正を表し、三日月は5つの星が示す理想に向かって進むことを意味している。</p> <p>独立：1965/8/9 マレーシアより 国連加盟：1965/9/21 政体：共和制</p>	国の概要	国土	面積 697 km ² （東京 23 区とほぼ同じ） マレー半島南端部に浮かぶ島国で、周辺の小島も含む。本島は東西 42km、南北 23km で、平均海拔高度は 32m と低い丘陵性の地形である。半島とは幅 1 km ほどのジョホール水道で隔離されている。
		人口	448 万人
		言語	マレー語（国語）、英語（公用語）、中国語（公用語）、タミール語（公用語）
		通貨	シンガポール・ドル
		気候	熱帯海洋性で、年間を通して高温多湿である。モンスーン地帯にあるため年中微風があり、朝夕は凌ぎやすい。季節は明瞭でないが、北東モンスーンの卓越する 11 月～3 月に降雨が多い。南西モンスーンの卓越する 5 月～9 月は天候が荒れることがある。年降水量は 2753mm ほどで、スコール性の降り方をすることが特色である。
		民族	中国系 75.2%、マレー系 13.6%、インド系 8.8%
		宗教	仏教、イスラム教、キリスト教、ヒンズー教、シーク教、道教
教育制度の概要	学校体系	・保育所・幼稚園（3～5 歳、概ね 3 年間）、小学校（6～12 歳、6 年間）、中学校（13～16 歳、4 年間）、大学進学課程（17～18 歳、2 年間）、ポリテクニク（3 年制の専門学校）、技能研修所（17～19 歳、3 年間）、大学（18～22 歳）となっている。	
	義務教育	・小学校 6 年間で義務教育である。しかし、中学校までの 10 年間の教育費無料を保証している。99%以上が 10 年間の教育を受けている。 ・20 校の障害児のための特別支援教育学校がある。11 の福祉団体が政府から補助金を受けて運営している。	
	日本と比較した教育課程上の特徴	・小学校から各段階で生徒を能力別に選別していくための試験がある。まず、4 年生の終わりに学校が独自に定めた基準に基づいてテストが行われ、オリエンテーション段階（初等教育 5～6 年生）のための振り分けが行われる。その後、初	

	<p>等学校卒業試験（PSLE）、中等学校卒業時のシンガポール・ケンブリッジ「普通」教育認定試験（GCE-O）、ジュニア・カレッジ等卒業時のシンガポール・ケンブリッジ「上級」教育認定試験（GCE-A）が行われ、これらの成績によって進路が決められるという「徹底した能力主義」が最大の特徴である。</p> <p>・授業は公用語の一つである英語でなされるが、他民族国家であることから、同時にそれぞれの民族の母語を初等学校の1年生から学ばせる「2言語主義」や初等学校のカリキュラムにおいて語学・数学・自然科学など実践的な学問を重視する（1～4年生の授業は語学と数学で約80%を占める）一方で、教養的な側面をもつ人文科学等をあまり重んじていないなど、「実学重視」の傾向が見られる。</p>
義務教育後の教育	<p>・大学は国内に3校あり、進学率は約23.5%である。</p>
就学前教育	<p>・2～4歳児対象の保育園、5～6歳児対象の幼稚園があるがいずれも義務ではない。</p> <p>・授業は英語と母国語（中国語、マレー語、タミール語）の2カ国語にて行われる。言語の他には算数を学習する。</p>
その他	<p>・教育の目的を「子どもが生活していく上で必要となる技能を習得させるとともに、子どもが責任ある大人、忠誠心ある市民、勤勉な個人となるように、健全な道德価値観を教え込むことにある」とし、「読み書き」「計算能力」「2言語主義」「体育」「道德教育」を5つの柱としている。</p> <p>・男性で18歳以上の全ての健康な国民及び永住権保有者は2年のナショナルサービス、いわゆる兵役義務に服し、国軍、警察あるいは民間防衛隊のいずれかで勤務することになっている。このため、男子のGCE-Aレベル試験合格者には、ナショナル・サービスを終えてから大学に入学する者が多い。</p> <p>・イスラム学校、日本人学校、インターナショナルスクールがある。</p>
休業期間	<p>・年間200日の登校が定められている。</p> <p>・学校年度は1月初旬～11月中旬で、4期に分かれている。1期は1月2日～3月上旬、2期は3月下旬～5月下旬、3期は6月下旬～9月上旬、4期は9月中旬～11月中旬であり、それぞれの期間の間に、短期、長期の休みがある。</p>

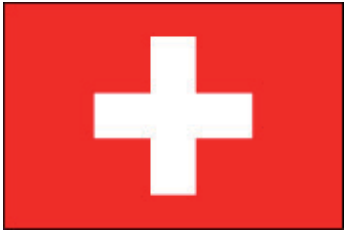
教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初等学校 1～4 年生では、語学と数学の基礎の習得が目標とされ、授業時間の 60%が英語（33%）と母語（27%）に、また、20%が数学に当てられている。残りの 20%は、道徳教育、音楽、図画工作、保健、体育に当てられている。
学校行事の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の通常の授業とは別に、子どもたちは課外活動（CCAs）に参加している。課外活動は、子どもたちに運動、自己訓練、チームワーク、自信をつける機会を与えるものである。各々の子どもの精神的、身体的成長はここで培われていく。 ・ 課外活動には様々なものがあり、子どもたちはスポーツや社会活動の中から選択することができる。スポーツ活動には、陸上、バスケットボール、テニスなどがあり、社会活動には赤十字活動や警察体験活動などがある。また、民族舞踊、演劇、写真、コンピュータや園芸などの文化活動の中から選択することもできる。 ・ 課外活動は初等学校 4 年生以上を対象としているが、参加は任意である。中等学校では、一つ以上の課外活動への参加が必須となっている。 ・ 毎年、地域や国レベルの様々な課外活動イベントを実施し、学校間で競争している。スポーツイベントには、インタースクール・クロスカントリー・チャンピオンシップ、ナショナル・トラック&フィールド・スイミング・チャンピオンシップがある。シンガポール・ユース・フェスティバルが毎年開催され、演劇や合唱、美術や工作の展示、社会活動イベント、スポーツイベントが行われる。
給食	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食のシステムはないが、各学校内にキャンティーンと呼ばれる食堂があり、食事だけでなく、軽食・おやつ・飲み物などを購入して飲食することができる。長い休み時間や授業開始前も飲食することができる。 ・ 食堂では、例えば 1 年生と 6 年生がペアになって、上級生が下級生をお世話と一緒に食べる。これを「バディシステム」という。食後は、みんなで歯磨きをする。
チャイムや号令	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんど日本と変わらない。 ・ 教室に来客があると全員起立して挨拶する。
教室における行動様式等の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんど日本と変わらない。 ・ 常夏の国であるため、ほとんどの生徒が飲み物を机上に出してあり、水分を補給することは認められている。

	校則	<ul style="list-style-type: none"> ・制服を着用する。 ・校則は、日本より厳格に運用され、教師や目上の人に対する礼儀も正しい。校則違反者には厳しく対応する。 ・いわゆる教育困難校では、学校と警察の連携も強い。問題行動が多発している学校には警察 OB を配置しているところもある。
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の PTA に相当する組織化されたものはないが、学校によっては PTC(Parents and Teachers Conference) がある。 ・学校運営には、保護者の協力が欠かせない。図書館運営、読み聞かせ、各種イベントに保護者がボランティアとして協力している。 ・保護者が授業のアシスタントをすることもある。児童の入学 3 ヶ月後に学校と保護者が話し合う機会を設け、その際にボランティアとして協力してくれる人を募集している。 ・保護者が子どもを入学させたい学校のボランティア活動を入学前に行って、その活動が評価されて、子どもが入学しやすくなる事例もあると聞いたことがある。
	子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題を 3 時間し、さらに 2 時間家庭教師などについて勉強している。とにかくよく勉強する。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の学習では、「ツ」と「ス」と「チュ」の区別がつかない、「ウ」と「オ」を混同してしまう、「アイ」を「エー」と発音することがある。
	宗教上の忌避事項	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの宗教が混在しているので、注意を要する。食事に招く際や寺院の訪問のときは事前に調べておく方がよい。
	指による数え方 計算方法の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と変わりはない。
	食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・シンガポール料理は、中国料理をベースにマレーの影響をとるところに受けている。麺類や炒め物、カレーなどである。 ・日本より外食をする家庭が多く、ホーカーとよばれる食堂で安価な食事をすることができる。 ・マレー系とインド系の人は手で食事をすることがある。 ・食べ物はすべて「ハラール」といって宗教的に定められた方法で作られている。
	衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・高温多湿の環境であるが、日本とあまり変わらない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・国民の 8 割は、HDB とよばれる高層アパートに住んでいる。
交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・交通規則や車、歩行者も日本と同じである。 ・バスや電車に乗っているとき、お菓子を食べたり、ジュースを飲んだりすると罰金が科せられる。 ・横断歩道以外の場所で道を渡ると罰金をとられる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・中国系、マレー系、インド系など様々な人種の人々が住んでいて、独自の暦に基づく正月を祝うため、お正月が 4 回ある。 ・日本のアニメや漫画などに興味をもっている生徒も多く、日本に好印象をもっている。 ・「ゼロポイント」という、ゴムを使ってなわをつくる遊びがある。 ・じゃんけんは、「シザーズ ペイパー ストーン」といい、日本と同じように石（ストーン）とはさみ（シザーズ）と紙（ペイパー）で勝負する。石ははさみに勝って、はさみは紙に勝って、紙は石に勝つ。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・シンガポールと教育制度・・・・・・・・・・・・・・・・CLAIR
- ・世界の国・地域の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・SIRA キッズ
- ・おもしろジャンケン・・・・・・・・・・・・・・・・日本アセアンセンター
- ・シンガポール日本人学校（月刊誌「海外子女教育」）・・・・・・・・海外子女教育振興財団
- ・世界の郷土料理・・・・・・・・・・・・・・・・KDDI
- ・海外日本人学校勤務経験教員より

スイス連邦		首都	ベルン
 <p>連邦兵士が 13 世紀ごろから使っていたもの。シュビツ州人の赤い楯に白十字の標識に由来する。十字はキリスト教に由来する。</p> <p>建国：1291/8/1 国連加盟：2002/9/10 政体：連邦共和制</p>	国 の 概 要	国土	面積 4万 1,000 km ² (九州よりやや大きい) アルプスが東西に横断する内陸山岳国で、特に中南部はアルプス山系の中心部にあたり、マッターホルン、ユングフラウなど 4,000m 級の高峰が連なる。北西部には、ジュラ山脈が走り、この両山脈に挟まれた部分には草原が広がっている。氷河による U 字谷やレマン湖、ポーデン湖、チューリッヒ湖などの氷河湖も多い。
		人口	730 万人
		言語	独語、仏語、イタリア語、ロマンシュ語
		通貨	スイス・フラン
		気候	全般には西岸海洋性気候と大陸性気候の中間にあたるが、地形と標高により多様で、高度 1000m 以上は山岳気候となる。冬の積雪が多いが降水量はむしろ夏に多い。天候は概して不安定で、春にはフェーン現象が発生する。
		宗教	カトリック 46%、プロテスタント 40%
		学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する権限は、一部連邦や市町村にも分配されているものの、主に州が持っている。教育制度は各州 (26) によって異なる。 ・スイスの教育制度は州が権限を持ち、連邦レベルには教育を管轄するいわゆる教育省はない。スイスには、多様な文化、言語があり、各州が教育制度の権限を持つことにより、教育の分野においても多文化・多言語の共存が考慮されている。 ・連邦レベルで統一されているのは、就学開始年齢、学年の始業時期、期間、義務教育の年数である。 ・各州には独自の学校教育法があり、市町村にもその地域に適應した教育方針が立てられるよう大きな自治権が与えられている。 ・一般に初等教育が 6 年、中等教育 I が 3 年だが、それぞれの割り振りを 4 年と 5 年、もしくは 5 年と 4 年としている州が 6 州ある。
義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育は日本と同様に 6 歳から 15 歳までの 9 年間であるが、一部 7 歳から 16 歳までの州がある。公立学校は授業料、教材費が無料である。 		


	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育は各州および属する地方自治体の共同職務で、自治体は就学年齢の児童が学校で勉強できる環境に配慮する。学校運営に関しては、地方自治体の学校委員会の責任において監督・指導が行われる。 ・保護者には、児童を規則的に学校に通わせる義務があり、義務が果たされない場合には学校委員会による公聴会后、告発される。 ・ベルン州では最初の6年間は初等学校としてすべての児童が一斉に授業を受け、5年生からは外国語の履修が始まる。次の3年間は、実業学校と中学校の2つのコースがあり、どちらかに進む。
日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・学校年度は8月より翌年の7月までであり、2学期制を採用している。1学期は8月から1月まで、2学期は2月から7月までとなっている。 ・教授言語は自治体の公用語による。(ドイツ語・フランス語・イタリア語) 教科は、国語、算数、理科、工芸、音楽、体育などがある。
義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育修了者のほとんどが高校へ進学するが、3分の1はギムナジウムなどの普通高校(4年間)に進み、3分の2は職業高校(3年間)に進む。 ・大学進学希望者は最終学年に大学入学資格(マトゥラ)を取得し、その成績に応じて希望の大学・学部に進学する。医学部を除いて大学入学試験はない。 ・平均5年程度で大学を卒業するが、その間に兵役義務があるので、卒業時の年齢は若くて25歳程度となる。
就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前教育(幼稚園)と家庭外保育(保育所・プレーグループ)ははっきりと分けられている。各州では、義務教育就学以前の子どもは最低1年間幼稚園に通う権利があり、20の州では、2年保育の権利がある。 ・家庭外保育を要求できる法的権利は与えられていない。幼稚園から小学校への入学がスムーズに行くように、幼稚園での早期教育を始めるような試みも見られる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・スイス26州の州政府教育長は、スイス全体の教育分野における共同を目的としたスイス各州教育長会議に参加し、連邦レベルでの教育制度の統一化やスイス全体の教育の質を安定させることを目的とし、小学校の授業で使用する言語、外

		国語、数学、自然科学の分野における必須教科を州間で統一するプロジェクトなどを行っている。各州の教育制度の統一化がされれば、児童が別の州の学校に転校した際の困難が解消される。
学 校 生 活	休業期間	・夏休みは5～6週間、秋休みは約2週間、クリスマス～新年は約10日、スポーツ休みは2週間、春休みは2週間である。
	学級担任制、 教科担任制等	・小学校では、担任がほとんどの科目を受け持つことが多い。 ・中学校では、教科担任制が優先されている。
	飛び級、落第の有無	・飛び級は極稀で、落第もほとんどない。最履修や転校を薦められる。
	教育内容の差異	・あまりない。課外活動は日本よりもっと自由な環境のもとで行われる。
	学校行事の特徴	・学校によってまちまちである。日本の式典（入学式・卒業式等）はない。
	給食	・通常、昼食は帰宅して食べる。自宅で昼食をとらない生徒のため、学校に食堂がある。
	チャイムや号令	・始業開始・終了時にチャイムがなる。号令はない。
	教室における行動様式 等の違い	・スイスと比べて、日本の教室では、規律がとても重んじられ、グループ内行動、適応が大切にされている。
	校則	・存在する。特に校内においての行動が取り上げられる。学級あるいは先生と生徒の間で決まりがかわされることもある。
	保護者の授業参観、保 護者会、PTA	・通年を通して、授業参観日が設けられている。親は授業参観する権利があり、先生と決められることもある。
子どもの一日	・午前8：00～11：45まで授業、約1時間半のお昼休みの後、午後の授業（15：00～19：00）がある。放課後は家で宿題をしたり、課外活動をしたりする。	
生 活 習 慣 等	交通規則の違い	・右側通行である。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省


- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・スイスーその多様性・・・・・・・・・・・・・・・・・・スイスワールド

スウェーデン王国			首都	ストックホルム
 <p>古い王朝の紋章のなかの黄金の十字と地色を圖案化したものである。</p> <p>独立：1523/6/6 デンマークより 国連加盟：1946/11/19 政体：立憲君主制</p>	国 の 概 要	国土	面積 45万km ² （日本の1.2倍） スカンジナビア半島の東側を占める国で、国土の7分の1は北極圏である。ノルウェーとの国境地帯は山岳地帯で、東のバルト海に向かってなだらかに傾斜している。バルト楕状地の氷食地形で、豊かな森林に覆われ、その中に9万以上の湖沼が存在する。南部の平野には氷河湖やモレーン（氷河に運ばれた堆積物）が多い。	
		人口	900万人	
		言語	スウェーデン語（公用語）	
		通貨	スウェーデン・クローナ	
		気候	南部はメキシコ湾流の影響で、緯度のわりには比較的温和だが、北部は大陸性の寒冷な冷帯湿润気候で冬季期間は7カ月もおよぶ。降水量は季節による変動は少なく平均している。北極圏で白夜が見られる。	
		民族	北方ゲルマン系スウェーデン人 98%、フィン人、サーミ人	
		宗教	ルター派 87%、カトリック、正教会、プロテスタント、イスラム教、ユダヤ教、仏教	
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学校 9年、高校 3年（コースによっては2年又は4年）、大学（学士号取得は通常3年）となっている。 ・小・中学校、高校、職業学校、成人学校、大学及び大学院も入学金や授業料は無料である。 		
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育は基礎学校（3年間×3段階：低学年、中学年、高学年）で1年生（7歳）～9年生（15歳）の9年間である。 ・入学する年の1/1～12/31までに満7歳になれば、入学することができる。 ・最近の傾向として6歳から基礎学校1年生に入学可能としている市が増加している。 		
	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・学校年度は8月に始まり、2学期制である。 ・教育課程は国語（スウェーデン語）、数学、理科、社会、英語（必須）、（仏語、ドイツ語は選択）、音楽、家庭科、体育となっている。 ・病気等で学校に出席できない児童に対する特別授業を病院 		

		<p>や家で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5 年及び 9 年生の修了までに、その目標に達しない児童に対する特別授業がある。 ・ 移民の多い都市ではスウェーデン語教育を特別に行っている。
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学校の上に総合制高等学校（3 年制で 16 歳～18 歳）がおかれている。 ・ 大学へは数年間働いてから入学するケースも多く、労働経験もメリットとなるシステムになっている。
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園に入れる義務はない。幼稚園の対象年齢は 1 歳～6 歳であるが、6 歳になる全ての子は幼稚園に入る権利がある。費用は両親の収入及び幼稚園での出席時間により計算される。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学資格があれば、スウェーデン人のみでなく、外国人でも教育を受けることができるため、EU やアジア諸国からも入学している。
学 校 生 活	給食	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の食堂で無料で食べられる。

<参考資料>

- ・ 世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・ 諸外国の教育情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・ ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・ 世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス

スペイン		首都	マドリード
 <p>「血と金の旗」といわれ、中央の黄は 6 世紀頃の西ゴート王の勇敢さをたたえる色といわれている、左側の紋章はイベリア半島にあった 5 つの王国の紋章を組み合わせてつくり、両側の柱は「ヘラクレスの柱」といわれスペインと中南米の領土を表している。</p> <p>独立：1492 ムーア人支配下より脱し、領土統一を完了 国連加盟：1955/12/14 政体：立憲君主制</p>	国の概要	国土	面積 50 万 6,000 km ² (日本の 1.4 倍) イベリア半島の 70%を占め、大西洋と地中海に面している。北東のピレネー、北のカンプリア、南のシエラネバダ、シエラモレラの 4 山脈に囲まれ、大部分がメセタとよばれる標高 600m～800mのテーブル状の高原である。平地は東部のエbro川、南西部のグアダルキビル川河口域に開ける程度である。地中海上のバレアレス諸島・大西洋上のカナリア諸島、さらに北アフリカのセウタとメリリャを含む。
		人口	4,410 万人 (2007 年)
		言語	スペイン語 (公用語)、カタルニャ語 (公用語)、ガリシア語 (公用語)、バスク語 (公用語)
		通貨	ユーロ
		気候	全土が温帯であるが、大きく 3 つに分けられる。大西洋に面した部分は、夏冷涼で、冬温暖な海洋性気候で降雨は年間を通して平均している。中央高地は大陸性で寒暑の差が大きく乾燥している。地中海沿岸は典型的な地中海性気候で、夏は高温乾燥、冬は温暖である。
		宗教	カトリック 99%
教育制度の概要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園 (4 カ月～)、幼稚園 (3 歳～5 歳)、小学校 6 年間 (6 歳～12 歳)、中学校 4 年間 (12 歳～16 歳)、高校 2 年間 (17 歳～18 歳)、大学 5～6 年間である。 	
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育は 6 歳～16 歳までの 10 年間である。 ・その年の 12 月 31 日までに満 6 歳になる者は、その年の 9 月第 2 週に第 1 学年に入学する。 ・無償である。 	
	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・教育法に定められた基本枠組みの中で、17 の自治州に教育制度に関する自治を認めているので、各自治州によってカリキュラムの内容が異なる。 ・学校年度は 9 月第 2 週～6 月第 3 週であり、3 学期制を採っている。1 学期は 9 月第 2 週～12 月 20 日ごろ、2 学期は 1 月 8 日～3 月末または 4 月上旬、3 学期は 3 月末または 4 月上旬～6 月第 3 週である。 	


	<ul style="list-style-type: none"> ・公立の授業時間は 8：30～14：00、私立は 9：00～17：00 である。年間授業日数は 160 日、土日が休みの完全週 5 日制である。 ・カリキュラムは各教科の教授会によって決められ、教材の選択が行われる。 ・6 歳から外国語教育が導入されている。 ・道徳と特別活動は教育課程に位置づけられていないが、宗教（選択）の時間がある。 ・朝自習、健康観察、学級担任との顔合わせ（朝の会）などはなく、遅刻してくる生徒も多い。 ・教科書は無償ではなく、使い回しをすることもある。
義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育修了後の進学先は高校又は中等職業学校に分かれていて、それぞれ 2 年間通学する。高校への進学率は 80%位である。 ・大学に進学するには日本のセンター試験にあたる国家試験を受ける。その国家試験の成績とそれまでの学業成績との総合評価によって進学する大学が決まる。 ・大学・短大に進学を希望しない者は技術を習得する専門学校へ進める。 ・高等学校 1～2 年を修了すると全国統一大学入学選考試験を受験できる。なお、短大は 3 年制、大学は 4～5 年制である。 ・25 歳以上の者のための大学入学試験もある。
就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・0～2 歳児対象の幼稚園と 3～5 歳児対象の幼児学校の 2 段階に分かれる。 ・第 2 段階の幼児学校は義務ではないが、現在 100%近くが就学している。文字等も教える。 ・公立の場合は、初等学校に併設されており、無料である。私立の場合は幼稚園の段階から入学が可能で、費用がかかる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた能力をもつ子どもたちには、その能力を伸ばすための英才教育が行われている。 ・外国人移民の急増が新たな社会現象となっている。文化・習慣・宗教などが異なる移民子女がうまくクラスにとけこめるようにすることが、最近の重要課題の一つとなっている。
休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みは 6 月 22 日～9 月 1 日か 2 日で、冬休みは、年末年始の 2 週間（クリスマス休暇）、春休み（イースター休暇）

学 校 生 活		がある。
	学級担任制、 教科担任制等	・小・中学校は一般的には教科担任制である。
	飛び級、落第の有無	・小学校から飛び級がある。 ・小学校3年生から落第がある。夏季休業のはじめに追試があり、それに通らなければ、9月にもう1度追試を行う。2教科以上あれば、進級できない。
	教育内容の差異	・外国語授業は、小学校1年生からあり、英語かフランス語の選択制になる。 ・放課後にハンドボール、バレーボール、フットボール、コンピュータ等のクラブ活動がある。
	学校行事の特徴	・入学式、卒業式は日本と同じようにある。 ・体育祭は通常行われる。 ・卒業旅行は最終学年の6月に行われる。
	給食	・それぞれの学校によって異なるが、給食（有料）のある学校もあれば、自宅に帰る場合もある。 ・公立校では原則として、昼食は帰宅後に自宅でとる。休み時間に軽食やおやつを食べる。 ・私立校では昼食は学校が準備するものを学校で食べる。
	チャイムや号令	・チャイムは全ての授業の切れ目に鳴らされる。
	教室における行動様式 等の違い	・1クラス25人で、一人ひとりの個性を大切に伸ばすことを教育の原点に少人数指導の充実を図っている。 ・宿題は週に何回か出される。 ・冬季休業中は宿題が出されるが、夏季休業中は宿題を出されない。
	校則	・学校でも家庭でも、その行動様式の規範として、「だれも見ていなくても、神のみぞ知る」という厳然たる「神をよりどころ」とした価値基準が行動規範になっている。 ・公立校では、制服はないが、作業着のようなスモックを着用するところもある。 ・私立校では、普通制服を着る。
保護者の授業参観、保護者会、PTA	・基本的に学校教育と家庭教育の分担が明確であり、生活指導上の問題に教師が積極的に関与することはあまりない。 ・両親や保護者の学校への依存度は比較的高く、学期末には両親・保護者と教師の個別面談が行われ、PTA活動も活発である。学校からの要請があれば手伝う。教師との懇談会も行	

		<p>われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観は定期的に行われることはない。 ・地域住民と学校との関係は比較的密接である。 ・TUTOR 制というものがあり、各生徒に後見教師がつき、親が子どもの学習面、生活面での相談ができる。
	子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> ・7 時頃起床し、朝食後登校、下校後は昼食をとり、友達と遊ぶ。宿題をして、9 時ごろ夕食をとり、10 時～11 時頃寝る。 ・小学生は、原則として保護者が送り迎えをする。
	その他	
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ガリシア、バスク、カタルニア、バレンシア等の地方ではそれぞれの地方言語での授業もあるが、一般的にはスペイン語での授業となる。 ・日本語の学習では、「ツ」と「ス」と「チュ」の区別がつかない、「シ」と「チ」の区別がつかない、「ヤ行」と「ジャ」行が混同してしまう、「ハ行」の子音の脱落がみられる。
	宗教上の忌避事項	
	指による数え方、計算方法の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・人差し指から数える方法が主流だが、親指から順に小指に向けて数えるやり方もある。 ・「6」を表す場合、日本では左手を開いた手のひらに右手の人差し指で「1」を添えるが、右手を開いた手の甲に左手の人差し指で「1」を添える。 ・おつりの出し方が違う。
	食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食は1日の食事の中心で量が多く、夕食は軽食程度である。朝食は7時～8時、昼食は午後1時～、夕食は午後9時からである。
	衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・レンガ、コンクリート、石の家が多く、木造はほとんどない。安全確保のため、オートロック等の装置がついていることが多い。 ・室内では、室内履きを履くことが多い。 ・浴室とトイレは一緒である。
	交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・車は左ハンドルで、右側通行である。制限速度は日本より緩やかである。カーブミラーはあまり見かけない。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校以下の生徒たちの間では、日本のアニメやゲーム機の人気が高く、高校生になると、奈良や京都などの有名な観光地や高度なテクノロジーに関心を持つ生徒が見られる。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の教育情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・スペイン教育事情見聞録・・・・・・・・マドリッド日本人学校 加瀬 忠
- ・日本語指導教材の開発・・・・・・・・井上恵子
- ・マドリッド日本人学校（月刊誌「海外子女子女教育」）・・・・・・・・海外子女教育財団
- ・日本語指導教員より

スリランカ民主社会主義共和国		首都	スリ・ジャヤワルダナコラ・コッテ
 <p>左側の緑はイスラム教、オレンジ色はヒンズー教を表している。剣をもつライオンはシンハラ王朝以来の古いシンボルで、右足に刀をまっすぐに立てて持っていて、正義・公正・勇敢さ・強さ・国の規律を意味している。ライオンの目は統治者が何をしているかを見張っており、舌は統治者の言葉は正直で誠実なければならない、頭としっぽは統治者と市民が平等、毛むくじゃらな体は強さ、刀は国の公正な統治とすべての人に対して公正でなければならないことを意味している。長方形の四隅にある4枚の菩提樹の葉は、思いやり、親切さ、他の人の成功に対する喜び、平静を象徴している。</p> <p>独立：1948/2/4 英国より 国連加盟：1955/12/14 政体：共和制</p>	国の概要	国土	面積 6万6,000 km ² (北海道の80%) インド亜大陸南端の東、約30kmのインド洋上に浮かぶほぼ卵形をした島国で、北半分は平地が広がり、中南部はピズルタラガラ山をはじめとして2,000m級の山岳が連なる。島の周辺には、サンゴ礁が発達している。インドとの間にアダムスブリッジと呼ばれる砂州がある。
		人口	2,070万人
		言語	シンハラ語(公用語)、タミル語(公用語)、英語
		通貨	スリランカ・ルピー
		気候	高温多湿の熱帯モンスーン気候、5~9月の南西モンスーンは山岳の南西斜面には多量の雨をもたらすが、北部と東部は乾燥する。11月~3月の北東モンスーンは島全体に雨をもたらす。
		民族	シンハラ人74%、タミル人18%、マレー人7%
		宗教	仏教70%、ヒンズー教15%、キリスト教8%、イスラム教7%
学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校5年(プライマリ)、中学校4年(ジュニアセカンダリ)の後、高校2年は全国統一試験O(オー)レベル受験のための準備期間となる。 ・O(オー)レベルの合格者だけが高校に進学する。この高 		

教育制度の概要		<p>校の2年間は、大学進学資格となるAレベルを受験するための準備期間となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Oレベル合格者は約40%、Aレベル合格者は約2%である。Aレベルに合格しても、試験が難しいため、全員大学に入学するとは限らない。 ・公立と私立、英語で授業するインターナショナルスクールがある。
義務教育		<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育期間は5歳～16歳の12年間で、幼稚園年長～小学校1年生～中等教育期間修了までである。小・中一貫教育である。 ・1月1日に5歳になっていれば入学できるので、早生れ（1月から3月生れ）の子以外は、日本と比べると1年3ヵ月も早く入学する。 ・義務教育は無償であり、教科書は貸与される。また、制服は国から支給される。
日本と比較した教育課程上の特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・学校年度は1月から12月で3学期制を採っている。 ・1学期は1～4月、2学期は5月～8月、3学期は9月～12月となっている。 ・授業言語はシンハラ人にはシンハラ語、タミル人にはタミル語で行っている。また、モスリムにはシンハラ語かタミル語のどちらかを選択させて指導しているが、ほとんどがタミル語を選択しているという。 ・2年生までは、算数、国語（シンハラ語）、自然学（生活科のようなもの）、図工、体育、宗教学の6教科である。3年生になると6教科に英語が加わり、6年生からさらにタミル語が入り、自然学が理科と社会に分かれる。9年生からは、さらに技術と芸術のどちらか、英語（筆記）と西洋音楽のどちらかの2教科が加わる。
義務教育後の教育		<ul style="list-style-type: none"> ・小学校に入学した生徒のうちOレベルに進む生徒は70%、Oレベル合格者のうち高校に進む生徒は36%、大学進学は、かなりの難関で受験者の1割程度となる。
就学前教育		<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児は学校に併設されている幼稚園に入園し2年目から1年生になる。 ・政府は、全ての子どもが幼稚園へ行くことを義務付けているため、ほとんどの子どもが幼稚園に行く。


学 校 生 活	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・落第制度があり、卒業するのは8割ほどであるという。そのため、児童生徒の7~8割が放課後学習塾に通っている。 ・テストは毎学期行われ、進級の判断材料となる。
	教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教徒の多い地区の公立の学校では、教科の一つとして、仏教教育の授業があり、礼拝のしかたなどを教わる。 ・日本語がタミル語やフランス語とともに選択科目になっている中学校もある。
	給食	<ul style="list-style-type: none"> ・給食はなく、スナック類を持参したり、学校で購入したりして、11時頃の休み時間に食べる。 ・無料でパンやビスケットとミルクなどを食べさせてくれる小学校もある。
	校則	<ul style="list-style-type: none"> ・公立の学校の場合は、男子は白のズボンか紺のズボンに白のシャツ、女子は白のワンピースの制服がある。女子がブラウスにつけるリボン（またはネクタイ）だけは、各学校ごとに違うので、女子の場合はリボンを見るとどこの学校かがわかる。
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校1~3年生の期間は保護者が送迎を行う。 ・保護者を含む部外者は原則として学校敷地内に入れない。
	子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> ・大半の子どもは徒歩通学する。都市部では自家用車又は契約した会社のバンによる通学である。 ・バス・電車には通学割引制度があり、通学用の無料バスが運行されている地域もある。 ・放課後や週末は厳しい受験戦争のため、塾や家で勉強をして過ごす。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・教師監督下で、生徒会活動、課外活動などが行われている。
生 活 習 慣 等	宗教上の忌避事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教義に忠実な仏教徒は植物性の食品しか食べない。ほとんどのヒンズー教徒は菜食主義者である。
	食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・主食は米で、毎食必ず食べる。料理はそれぞれの民族ごとに異なるが、長い年月の間に互いの料理法が取り入れられている。特にカレーは種類が多く、右手をつかって食べる。肉よりも豆類や木の実を好んで食べ、米かパンにカレーまたはダル（豆のカレー）、キャベツやニンジンなどの野菜料理というのが一般的である。 ・カレーは日本人にとっての白いご飯と味噌汁のような感じの物で、1日3回、朝・昼・晩とカレーを食べる。日本のカ

	<p>レーとは違い、大分水っぽく、ビーフカレーならビーフだけ、野菜カレーなら野菜 1 種類か 2 種類といった具が少ないカレーである。ココナッツの白い実をすりおろして作ったココナッツミルク（ポルキリ）といろいろな種類のスパイスを調合して作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果物が豊富で、バナナ、ライム、マンゴー、パパイア、パイナップル、グレープフルーツ、ジャックフルーツ、キングココナッツ、マンゴスチン、ランブータン、パッションフルーツ、ドリアン等がとれる。
衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレで用をたした後、紙で拭く習慣がない。トイレに水をためる小さな容器が備え付けられていて、逐一水で洗う。裕福な家庭では「おしり洗浄器」を備えている。 ・服を着たまま体を洗う。裸にはならない。風呂場は普通屋外にあり、常に人に見られる可能性がある開放的な造り、水場の脇で石鹸を遣って体を洗い、桶で水をざぶざぶとかけて流す。地方の裕福でない家庭では、近くの川や池で体を洗う。
交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・信号機が非常に少なく、車道のレーンなどもあまり関係なく、車、三輪自動車（オートリクシャー）、自転車、歩行者がひしめきあっている。クラクションを鳴らして走る車が多い。 ・公営バスは大型で定められた停留所しか止まらないが、民営バスはマイクロバスで、停留所はなく、手を上げて乗り、ベルを鳴らして降りるというシステムである。両方ともとても混んでいて扉がないものも多い。このバスはインドのメーカーで製造されていて、そのモデルには扉がないためである。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教徒の人たちは、満月の日には働くことをしないで、ゆっくりと体を休め、お寺にお参りする。満月の日は「ポーヤデー」と呼び、国民の休日になる。銀行や役所、デパートなどは全て休みとなる。（最近は大きなスーパーなど、開いている店も多くなってきた）ポーヤデーにはお酒を飲んではいけないという決まりがあり、スーパーに並んでいたお酒は奥にしまわれてしまい、買うことができない。 ・クリケットは最も人気のあるスポーツで休日にはよく行なわれる。 <p>ビリヤードとおはじきをたして 2 で割ったようなゲーム「キャロム」という遊びがある。</p>

		<p>・日本については、四季があって自然が美しく、国民は勤勉で親切、経済が発展して豊かな国であるというイメージを持っている。</p>
--	--	--

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の教育情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・平凡社
- ・スリランカの人々・・・・・・・・有馬白百合幼稚園
- ・コロンボ日本人学校ホームページより

タイ王国		
 <p>トン・トライロングと呼ばれ、赤・白・青の3色の横縞で、中央の青の幅が赤と白の2倍になっている。白は国のシンボルの白象の代わりで宗教、赤は国家及び国民の団結心、青は王室の色である。</p> <p>独立：13世紀 スコタイ王朝成立 国連加盟：1946/12/16 政体：立憲君主制</p>	国 の 概 要	<p>首都 バンコク</p> <p>国土 面積 51万3,000 km² (日本の1.4倍) インドシナ半島の中央部に位置する。メナム川が南北に貫流し、流域は広大な沖積平野を形成する。北部は山地といくつかの山間盆地、西部はミャンマーとの国境山脈、東部はコラートとよばれる低平な高原、南部はシャム湾とインド洋に面するマレー半島である。</p> <p>人口 6,420万人</p> <p>言語 タイ語 (公用語)</p> <p>通貨 バーツ</p> <p>気候 全体としては熱帯モンスーン気候で、半島部は熱帯雨林気候、雨季は南西モンスーンの6～10月、乾季は北東モンスーンの11月～2月、3～5月は暑熱となる。</p> <p>民族 タイ族 80%、中国系 (華僑) 6%、マレー人 4% インド系、ベトナム系</p> <p>宗教 仏教 95%、イスラム教 4%、キリスト教</p>
	教 育 制 度 の 概 要	<p>学校体系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初等教育機関として、初等学校 (小学校に相当、6年間)、中等教育機関として、前期中等学校 (中学校に相当、3年間) 及び後期中等学校 (高等学校に相当、3年間) がある。 ・高等教育機関として大学 (4年間) が設置されている。 ・中・高校は併設がほとんどである。 <p>義務教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイ国民は法律の規定によりその子女に基礎教育を受けさせる義務を負うこととされている。 ・義務教育は満6歳～15歳までの9年間である。初等学校は満6歳～満11歳まで、前期中等学校は満12歳～15歳までである。 ・国立学校は無償、私立学校は有償である。 ・貧富の差が大きく、農村部と都市部では就学率が大きく異なっている。教育環境にも差がある。 <p>日本と比較した教育課程上の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校年度は5月17日から翌年3月1日までとなっており、2学期制を採っている。 ・1学期は5月17日から10月1日まで、2学期は11月1日から翌年の3月1日までとなっている。 ・教育課程は、教育省が定める学習指導要領に基づき、各地

		<p>方基礎教育区及び各学校において編成するようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・午前 8 時に始まり、午後 4 時 30 分までで、昼休みは 50 分～1 時間、授業と授業の間に 10 分の休憩がある。授業の 1 単位時間は 45～60 分である。
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・2000 年現在、前期中等学校進学率は 82.8%、後期中等学校（高校）進学率は 57.4%である。大学に進学する生徒が増えている。 ・前期中等学校への進学率は高いとはいえない。前期中等学校の教育課程を修了した生徒の多くは、職業に就くかあるいは職業訓練教育機関で一定期間職業訓練を受けた後に就職する。 ・生涯教育として、1～4 年生レベルの読み書きと職業技術訓練や社会に貢献するための特別訓練プログラムが提供されている。
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前教育機関として幼稚園が置かれており、就園率は 87.7%である。 ・幼稚園からタイ語を勉強する。 ・共働き家庭では、保育園が利用されている。 ・都市部には、インターナショナルスクール（幼稚園）がある。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設置者は、原則として国又は公益法人等の民間団体であることから、設置者別の学校は、国立学校又は私立学校の 2 種類である。 ・都市部の富裕層が通う学校は、小学校 1 年から英語を導入し、学校施設も日本より豪華で立派である。先進国の文化を積極的に取り入れる学習があり、日本文化も大きく導入されている。
学校生活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・2 学期制をとっているため、10 月が休みになり、2 学期は 11 月上旬から 3 月中旬までなので、4 月から 5 月上旬までが学期休み（夏休み）になる。
	学級担任制、教科担任制等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校から高校まで、学級担任が 1 人か 2 人いる。科目ごとに教科担任がいる場合もある。 ・英語はネイティブの先生が担当している学校もある。
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の出席率が 80%に満たない場合は、定期学力考査を受けることができないとされている。落第はまだあるが、極め


	<p>て少ない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飛び級は昔あったが、今はほとんど無い。
教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教の授業がある。 ・私立では、幼稚園から英語を学んでいるが、公立では、小学校1年生または5年生より始まる。
学校行事の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教節には、大きな祭事行事がある。
給食	<ul style="list-style-type: none"> ・初等中等教育段階の学校には食堂があり、給食が採用されている。昼食を持参したり、購入したりすることもできる。 ・授業中以外ならいつ食べてもよい。学食販売時間が決まっている。基本的には昼休みと放課後である。 ・午後のショート休憩に牛乳が配られる小学校もある。
チャイムや号令	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始まる時間と終わる時間に鳴らされる。
教室における行動様式等の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内では、飲食が一切禁止されている。 ・その時間の授業に関係のない話をしたり、他の授業の宿題をしたりしてはいけない。 ・先生が教室に出入りする際、生徒は、皆一斉に挨拶をする。 ・お客様とすれ違うときは、両手を合わせて挨拶をする。
校則	<ul style="list-style-type: none"> ・教員から児童生徒に対し、授業の一環としての自宅における学習（宿題）が課せられる。 ・男女の別に制服（幼稚園から大学まで）が定められている。日本と同様に、学校によって色や形が違ふ。色は男子は茶・紺・黒、女子は紺・紫・黒などである。大学生は黒だくである。一般的には、上着は白いシャツで、下は男子がショーツ、女子はスカートである。色はほとんどの学校は黒だが、キリスト教の学校は紺である。大学は男子がショーツからズボンになる。 ・高校まではアクセサリーは禁止されている。学校によっては女子学生は金の玉状のシンプルなピアスのみ許されているところがある。 ・髪形も決められている。 ・IDカードを使って、いつ、誰が校舎を出たかがわかるようにしている学校もある。
保護者の授業参観、保護者会、PTA	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会が1学期に2回ある。
子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> ・5時～7時位に起床し、16時位まで学校で過ごした後、塾に行ったり、学内の特別授業を受けたり、好きなスポーツを

		したりする。それから、家に帰って、宿題、テレビ、パソコンなどをする。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・タイ文字は、13世紀に作られ、現在では42の子音文字と32の母音文字があり、組み合わせて音が作られる。普段使っているタイ語は丁寧語と普通語があり、敬体のようなものもあるが、王様やえらいお坊さんに限定されている。 ・話す相手によって言葉遣いが異なるので、注意が必要である。 ・日本語の学習では、清音と濁音の区別がつかない、「ツ」と「ス」と「チュ」の区別がつかない、「シ」と「チ」の区別がつかないことがある。
	宗教上の忌避事項	特にない。
	指による数え方 計算方法等の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・指による数え方は決まっていない。親指から数える人もいれば、人差し指から数える人もいる。一般的には、両手で10まで数えられる。 ・おつりは、全部そろえてから、一度に渡す。
	食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・米が主食で、おかずの種類が豊富で、代表的な料理は「トム・ヤム・クン」というえびのすっぱくて辛いスープである。タイ料理は辛いイメージがあるが、辛くない料理もあり、野菜炒め、肉類の炒め物、クリアスープなどがある。 ・朝食と夕食は家で食べるが、昼食は外で食べることが多い。日本のように弁当を作って学校や職場に持っていくことはほとんどない。 ・屋台があちこちに存在するので、食事の時間（3回）には、道路沿いに人があふれる。 ・ドリアン、マンゴー、ソムオー、ライチなどのフルーツをよく食べる。
	衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・一年中、ほとんど半そでで、乾季にだけ、上着が必要になる。
	交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とほとんど同じである。 ・「世界一の交通渋滞都市」といわれるバンコク市内の交通渋滞は凄まじく、バス、タクシー、トゥクトゥク、バイク、自転車、地下鉄などの交通機関がある。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・名前を呼ぶときは名字では呼ばず、名前で呼ぶ。 ・自分の生まれた曜日によって、お釈迦様があり、自分の生まれた曜日にお釈迦様にお祈りをする。お寺に行くと、7つ

	<p>のお釈迦様が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正式の年号は西暦ではなく、「仏暦」を採用している。西暦を仏暦に変える方法は、西暦に 543 年を加えるだけで、例えば、西暦 2008 年は仏暦 2551 年となり、略して 51 年とよぶ場合もある。日付の書き方は、日本とは逆で、「日月年」と書く。 ・男性は一生に一度は仏門に入る慣習がある。10 歳前後の少年僧が托鉢をして歩く行列を見かけることがある。 ・山岳部には、いろいろな少数民族が住んでいる。少数民族だけの学校もあり、小学校から帰宅すると飼っている豚の世話をしたり、畑仕事を手伝ったりしている。 ・じゃんけんは「パオ イン チュブ」といい、日本と同じようにハンマー（コーン）とはさみ（ガンガライ）と紙（グラダード）で勝負する。ハンマーははさみに勝って、はさみは紙に勝って、紙はハンマーに勝つ。掛け声は「ヤン イン ヤオ パカ パオ イン チュップ」です。 ・日本に対する関心が高く、音楽（Jポップ）、アニメ、特に漫画の人気の高い。
--	---

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・在京タイ王国大使館ホームページ・・・・・・・・タイ王国大使館
- ・世界の国・地域の紹介・・・・・・・・SIRA キッズ
- ・タイの子どもたちの学校・家庭・暮らし（ハローワールド）・・・・学研
- ・おもしろジャンケン・・・・・・・・日本アセアンセンター
- ・日本語指導教材の開発・・・・・・・・井上恵子
- ・海外日本人学校勤務経験教員より（2名）
- ・留学生より

大韓民国		
 <p>太極旗ともいわれ、宇宙生成の原理を元に作られている。中央の円は太極といって宇宙を表し、青は陰を、赤は陽を示し、万物は陰陽によって調和し統一されるとされている。四隅にあるのは易の卦で、天地火水、父母男女を表し、すべてが対比により和合していることを示している。太極旗は宇宙の調和を求める漢民族の生活そのものを表している。</p> <p>独立：1948/8/15 日本より 国連加盟：1991/9/17 政体：共和制</p>		国 の 概 要
	首都	ソウル
	国土	面積 約 100,000 km ² (北海道の 1.3 倍) 朝鮮半島の南半分を占め、国土の 70%は丘陵地と山地に占められている。東部に太白山脈が走り、西部は沖積平野が広がる。南部と西部の海岸線は複雑なリアス式海岸で、多くの島が点在している。
	人口	4,780 万人
	言語	韓国語 (公用語)
	通貨	ウォン
	気候	全般に温帯モンスーンに属し四季が明瞭であるが、寒暑の差が大きく、大陸性気候の特色も合わせもっている。南部は温和で 6～9 月に雨が多く、北に進むにつれ冬の寒さが厳しくなり、雨も少なくなる。
	民族	朝鮮人 (韓民族)
	宗教	キリスト教 49%、仏教 47%、儒教 3%
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初等学校 (小学校) 6 年間 (6～12 歳)、中学校 3 年間 (13～15 歳)、高等学校 3 年間 (16～18 歳)、短期大学 (2 年) 大学 4 年 (19～22 歳) である。 ・ 国、公、私立の学校がある。
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の小学校に当たる初等学校と中学校が義務教育の期間であり 9 年間となっている。 ・ 授業料は公立は無償だが、そのほかに、給食費、副教材費、研修旅行費がかかる。
	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校年度は 3 月 1 日から翌年の 2 月末日までであり、2 学期制度を採っている。1 学期は 3 月から 7 月、2 学期は 9 月から 2 月末となっている。 ・ カリキュラムは日本の学習指導要領と同様の教育課程を政府が定めている。教科書は科目によって国定教科書と検定教

	<p>科書が併用されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目や授業時間は日本と大きく変わらない。小学校 6 年生では、国語、算数、科学、社会、英語、道徳、体育、音楽、美術、実科、特別活動の科目がある。
義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・高校は大学進学を目的とする普通学校と就職を目的とする実業系学校の 2 種類に分けられる。高校への進学率は 2003 年では 99.7%となっている。 ・高校入試は、学区に基づく総合選抜制である。私立を含めたすべての高校において、内申書、適性試験の成績、居住地から自治体の教育委員会によって振り分けられる。 ・大学は専門職業教育を行う「専門大学」(2・3 年制) とアカデミックな色彩の強い「大学(校)」(主に 4 年制) に分けられる。他には産業大学、教育大学などがある。 ・大学への進学率は近年急上昇しており、1993 年で 38.4%であったものが 1995 年には 51.4%に、そして 2007 年には 83%となった。大学までは親が行かせたいというのが、一般的なので、以前は大学を卒業すると社会的に認められていたが、今では、誰でも大学に就いているので、大学のレベル競争が深刻化している。
就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前教育機関として幼稚園があり、対象年齢は 3 歳～初等学校就学までの期間である。私立の宗教法人の幼稚園が多い。費用は原則として自己負担である。 ・インターナショナル幼稚園もある。 ・小学校に入る前に日本語のひらがなのように、韓国語のハングルが少し書けるように勉強させる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的に学問を重視する社会風土があり、現在も過度の受験競争や学問偏重、私教育費の膨張等が社会問題になっている。 ・儒教の影響もあり、教員の社会的地位は高いほうで、教員採用試験の競争が激しい。 ・兵役のために大学を休学する男子学生も多くいる。年齢は 19 歳～、期間は 24 ヶ月ほどである。
休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みは、小・中・高校は 7 月の半ば～8 月末、大学は 6 月末～8 月末である。 ・冬休みは、小・中・高校は 1 月～2 月(2 月に 2 週間ぐらい学校に行く学校もある。その場合は 12 月末から冬休みに

		なる場合がある)、大学は12月末～2月である。
学 校 生 活	学級担任制、 教科担任制等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、主に1人の担任が全ての教科を担当する。音楽、美術などは専門の教師が担当する。 ・中・高校は完全な教科担任制である。
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校は6歳から入学だが、5歳から入学許可される場合がある。 ・出席日数が足りない場合は、落第する。
	教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動は授業の1コマとして設置されている。放課後の部活動もある。 ・小学校3年生から、週1～2時間、英語教育が義務付けられている。ALTも派遣されている。 ・情報インフラの整備が進んでおり、ITを利用した授業が展開されている。 ・音楽では、伝統音楽も習う。実科は日本で言えば家庭科に似ていて、料理や縫い物の他、コンピュータの使い方を習う。 ・礼節教育の授業は、目上の人への言葉遣いやおじぎの仕方などを習う。その時は、韓国の伝統的な衣装である韓服（はんぼく）を着る。 ・高校では、中国語、日本語など（フランス語・ドイツ語）が第2外国語として教えられている。
	学校行事の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・学校によって違うが、月1回全校朝礼がある。 ・入学式や卒業式などの儀式的な行事は日本と同じである。 ・運動会、文化祭、修学旅行は日本と同じように実施されている。 ・学芸会、合唱大会、学園祭、美術展覧会、写生大会がある。
	給食	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食法6条で、「学校給食は教育の一環として運営されなければならない」と規定されている ・給食は月曜日から金曜日、原則として初等学校から高等学校の全学年で実施されている。当番の人がごはんやおかずを配って食べる。（給食のメニュー例・・・玄米ごはん、海鮮みそ汁、キムチとハムの炒め物、うずらの卵の煮付け、黄桃、牛乳）給食代は1ヵ月ごとに保護者の銀行口座から自動的に引き出される。 ・給食施設がない学校もある。食堂のような所で、準備も全部やってくれる所もあるが、学生たちが自ら準備する所もある。

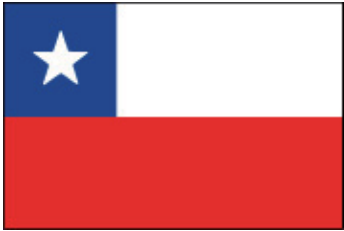
	<ul style="list-style-type: none"> ・校内に購買があり、授業間の休憩時間に飲食をしている。おやつを持参してもよい。
チャイムや号令	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムは全ての授業の切れ目に鳴らされる。昼休みの時は授業の始まり 5 分前に鳴る予備チャイムがある学校もある。大学にはチャイムがない。 ・号令も授業が始まる時にかけている。
教室における行動様式等の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉授業が多い。 ・コンピュータの設備が非常に整っており、授業でコンピュータが駆使されている。 ・冬休みと夏休みの宿題はたくさんある。
校則	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校での服装は自由であるが、中・高校では制服がある。スカートの丈や髪の色は決められている。化粧、ピアス、アクセサリーは禁止されている。くつしたの色まで決められているところがある。 ・学校指定のかばん、靴、体操服があるところがある。
保護者の授業参観、保護者会、PTA	<ul style="list-style-type: none"> ・年に 1~2 回ぐらい授業参観がある。 ・運動会のような行事にも参加する。 ・保護者会もあるが、保護者が参加するかどうかは自由である。バザーなどを開く。 ・小学校の場合、教室の環境整備等は保護者の協力のもとに飾られている。 ・給食費・副教材費・研修旅行費などは保護者負担である。 ・高校のときは、一生懸命勉強している子どもたちのために、おやつを配ったりする。例えば、自習時間の間の休み時間にピザやチキンなどを配る。
子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> ・午前から授業で、授業の後、塾に行く子どもも少なくない。受験のための学習塾や水泳、ダンス、絵画、テコンドー、英語、ピアノ教室、舞踊などの習い事に通う。 ・帰宅後は宿題やテレビ、インターネット、家族との食事と談話をし、11 時頃に就寝する。 ・土曜日は「現場体験学習」といって、学校に行かなくて、家で過ごしたり、親とどこかに体験学習したりする。

	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・全国一斉テストが実施されており、各校へ成績が知らされる。教員は、その結果に敏感で、学校間や地域間で競争意識を持っている。 ・教育熱心な家庭は、教育レベルの高い地域へ引越しをすることもある。海外への留学などもある。 ・受験競争が激しく、塾や家庭教師を雇い勉強している。 ・塾の行き来の関係もあるが、夜遅い時間でも小学生を街中で見かける。 ・韓国の歴史、社会などを徹底して指導しており、愛国心が育てられている。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・公用語は韓国語だが、第2外国語として英語が必須とされている。 ・漢字の氏名を持っているが、多くの人は漢字の読み書きが下手である。最近、政府は漢字を指導する体制にしようとしている。 ・日本語の学習では、清音と濁音が混同したり、「ツ」と「ス」と「チュ」の区別がつかなくなったりすることがある。
	宗教上の忌避事項	<ul style="list-style-type: none"> ・特にない。
	指による数え方 計算方法等の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・親指から順に小指に向けて数える方法と人差し指から開きながら数える方法がある。
	食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・箸とスプーンを一緒に使うのが一般的である。ご飯と汁物はスプーンで、おかずは箸で食べる。 ・食器はテーブルに置いたままで食べる。手に持って食べることは行儀が悪いとされている。 ・代表的な料理「チヂミ」は、生地の中に野菜や魚介・肉などの材料を混ぜてフライパンで焼く料理である。
	衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・四季があるので、季節に合わせて服を着る。 ・都市部では、高層のアパートが多い。 ・室内はくつを脱いで生活する。床にはオンドルの床暖房施設がある。 ・浴室とトイレが一緒の場合が多い。
	交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・車は右側通行で、交差点の信号は日本と同じ「赤青黄」で「→」信号もある。しかし、手前の信号がたとえ赤でも、車の右折については、安全ならば行ってもよいことになっている。 ・大通りは5～6車線もある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者信号は、赤から青に変わるとすぐに点滅する。 ・自転車をあまり使っていないので、自転車専用道路や駐輪場は少ない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・主な遊びとして、ヨンナリギ（たこあげ）、ノルティギ（板のり）、クネティギ（ぶらんこ）、シルム（韓国のすもう）、チャギチャギ（羽けり）、ムンアコ キピュオ スムニダ（だるまさんがころんだ）がある。 ・ジャンケン（じゃんけん）は日本と同じやり方で、パウィ（グー）、ガウィ（チョキ）、ポ（パー）で勝ち負けを決める。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・世界の国・地域の紹介・・・・・・・・SIRAキッズ
- ・韓国の子どもたちの学校・家庭・暮らし・・・・・・・・学研ハローワールド
- ・教育事情あの国この国・・・・・・・・全教研
- ・韓国の遊び・・・・・・・・ALE-NET
- ・韓国の学校・・・・・・・・首相官邸キッズルーム
- ・かわさき教育だより 社会科見学「世界の給食」・・・・・・・・川崎市教育委員会
- ・日本語指導教材の開発・・・・・・・・井上恵子
- ・海外日本人学校勤務経験教員より
- ・留学生より（5名）

チリ共和国			首都	サンティアゴ
 <p>赤は独立のとき流した血を、白はアンデスの雪を、青はチリの海と空を、星は国の統一への願いを表している。</p> <p>独立：1810/9/18 スペインより 国連加盟：1945/10/24 政体：共和制</p>	国 の 概 要	国土	面積 75万7,000 km ² (日本の約2倍) アンデス山脈と太平洋に挟まれ、東西100~350 km、南北4,270 kmの細長い国土で、5,000 m級のアンデスの尾根を国境線としている。北部はアタカマ砂漠など荒涼とした地形が多く、南部のパタゴニア地方は、無数の島々、湖沼、フィヨルドによる複雑な地形をみせている。火山帯に属しているため、地震が多発する。イースター島も含まれる。	
		人口	1,630万人	
		言語	スペイン語(公用語)	
		通貨	ペソ	
		気候	北部は乾燥が激しく海岸まで砂漠気候である。中央部は夏季に高温乾燥、冬季に温暖湿潤の地中海性気候、南部は冷涼で降雨が多いヨーロッパ型の西岸海洋性気候で大森林が発達し、最南部は年中天候が不順で、強風が吹き荒れる寒帯気候である。	
		民族	メスティーソ(白人とインディオの混血)65%、ヨーロッパ系30%、インディオ5%	
		宗教	カトリック89%、プロテスタント11%	
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園(1歳・・・歩けるようになったら)、入学前(1年間学校に通う、5歳)、初等教育8年(6歳~13歳)、中等教育(職業教育を含む)4年(14歳~18歳)、18歳からの大学(1年生~5年生または6年生、学部によって違う)である。ドイツとフランスをモデルにした。 ・中等教育は進学を目的とした普通中学と就職及び専門技術を身につけることを目的とした技術中学がある。技術中学には商業科、農業科、職業科、女子職業科があり、国の助成はない。 		
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・2003年5月の教育法改正により、従来、義務教育は初等教育(6歳から13歳)の8年間としていたものを、中等教育4年間(14歳~18歳)をプラスし、計12年間とした。 ・公立の小学校は無料だが、中学校は私立はもちろん公立(市立)でも生徒数に見合った補助金しか出ないため有料である。 		

	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・学校年度は3月第1週目～12月第3週までである。 ・公立校は2学期制を採っており、1学期は3月第1週～7月第2週、2学期は8月第1週～12月第2週である。 ・私立校の場合は3学期制学校が多く、1学期は3月第1週～5月第2週、2学期は6月第1週～9月第1週、3学期は9月第3週～12月第3週である。 ・私立の外国系現地校（ドイツ・イギリス・フランス・米国）では、文部省指定の国語、社会科を除く科目は外国語を使用しているところが多い。 ・中等教育第3, 4年になると生徒が好きな科目を選択することができ、選択コースの中では、化学、数学、音楽、美術などの人気が高い。 ・大学には日本語コースもある。
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・高等教育には職業高等学校、専門学校、大学の3種類がある。職業高等学校は2年から4年のコースで、大学卒業の資格はない。専門学校も4年から6年のコースだが、大学卒業の資格がある。大学は普通5年から7年のコースだが学部によって違いがある。中等教育から大学への進学の際は、まず、12月に行われる全国統一試験を受ける。この試験の結果は、翌週新聞で発表されるので、自分の受験番号と得点を各大学・学部の合格点を見比べて検討し、進路を決定する。2月に一部の学部（芸術関係）で試験があるが、一般学部は書類審査でほぼ決まる。受験生は中学4年になると予備校に通うことが多い。 ・私立には名門校と呼ばれる外国系の学校が多く、いずれも幼稚園から高校まで一貫した教育を行っており、最新の教育機器はもちろん、施設・設備も整っている。
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・0～3歳が対象のサラクーナと呼ばれる保育園及び4～5歳が対象のキンダー（幼稚園）があり、多くの子が通園している。
学 校 生 活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業は12月第3週から2月末の3ヵ月間、冬季休業は7月の2週間程度である。
	学級担任制、教科担任制等	<ul style="list-style-type: none"> ・初等教育の第1期（1～4年生）専門科目以外は担任が指導する。第2期の5～6年生の場合は学級担任でも教科担任でもよいが、7～8年生になると教科担任制となる。
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・一般に、出欠席日数は厳格であり、出席率85%以下は落

	<p>第、または進学試験を受けなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻 4 回が 1 日欠席に加算される。 ・点数は 7 点満点で、小数点以下 1 桁までつき、〇。〇であらわし、1 年の総合成績は小テストやレポート、期末試験などの点数を平均したものがそのままつく。4 以上でないと落第となる。ある科目だけ成績が悪い場合は補講を許してもらえることがある。 ・ずば抜けて成績がいい場合は飛び級がある。
教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> ・数字の 7 の書き方が違う。 ・水泳の学習はほとんどの学校でやらない。 ・掃除は教室だけなので、全員でやる必要がなく、当番制で、床をモップで拭く、庭やトイレは用務員がやる。中流以上の家庭には家政婦さんがいるので、家では家事を手伝う習慣がない。
学校行事の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの私立の小学校 3 年生以上の児童生徒には、運動部及び文化部の 1 つに所属することが義務付けられており、放課後などに活動する。 ・また、各学校にはボーイスカウトが編成されており、活発に活動している。 ・独立記念日にイベントを行う。 ・遠足とか各種行事のいくつかは生徒が自主的に企画・決定して行うことができる。 ・発表会やお祭りなどの行事はあるが、日本の学校の運動会や音楽会のように練習を繰り返すようなことはしない。低学年は簡単なダンスや行列、開会式、閉会式もやらない。 ・身体測定、健康診断などはないが、予防注射は実施される。
給食	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校により、給食の有無、その充実度は異なる。専門業者に外注するところが多い。 ・弁当持参の場合、パンとりんごだけという簡単な食事をする子もいる。小さなポットのような入れ物に入れてくる子が多いが、品数は少なく、スパゲッティとかゆでたパスタと肉料理といった程度である。 ・学校に売店があり、お菓子や飲み物を売っている。
チャイムや号令	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムは毎時間ごとに、始めと終わりに鳴る。 ・号令はかけない。 ・教師が教室に入ってくると皆さっと立ち上がり声をそろえ

		て挨拶をする。頭を下げることはしない。
	校則	<ul style="list-style-type: none"> ・授業が始まると門が閉められる。遅刻した場合や用があるときはブザーを押して開けてもらう。遅刻には寛容である。 ・小学校児童の早退には父母の出迎えが義務付けられている。場合によってはお手伝いさんが送り迎えをする。有料のスクールバスもあるが、学校の運営ではなく、個人の営業である。 ・服装は制服に登校着、運動着、作業着があり、着用が義務付けられている学校、制服の無い学校がある。 ・女の子はすそがくるぶしまであるような服を着てきたり、ピアス等の装身具をつける子どももみられる。 ・宿題は一般に量が多いが、週末や長期休暇などには出さないように配慮されている。 ・喫煙は禁止されている。
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	<ul style="list-style-type: none"> ・一般に、公立、私立とも学校及び教師と家庭との連絡は緊密に行われている。 ・親が集まって行事や学校の問題などを話し合う父母会や学校の行事などは夕方から始まる。ほぼ全ての家庭で共働きだから、父母会には父親の参加が目立つ。日本のような学校主導のPTA活動はない。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学校にお金を持って行き、子ども同士で物を売ったり買ったりする。学校にお菓子の移動販売車が来て、授業が終わった頃、校門のところに来て、子どもが買いに行く。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の学習では、「ツ」と「ス」と「チュ」の区別がつかない、「シ」と「チ」の区別がつかない、「ヤ行」と「ジャ行」が混同してしまう、「ハ行」の子音が脱落してしまうことがある。
	食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食はほとんどとらず、昼食は2時前後で、夕食は8時以降にとることが多い。 ・午後6時頃にオンセ（ティータイム）をとる。
	指による数え方 計算方法の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・おつりは、足し算式で小さい額から渡される。
	衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の気温差が激しいので、長袖の人と半袖の人が同時にいることは珍しくない。 ・住居は一軒家とデパルタメントと呼ばれるマンションである。家やマンションの入り口には呼び出し装置や開錠装置がついている。コンドミニウム形式のマンションにはポルター

	<p>口と呼ばれる管理人のような人達が働いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室内は土足で、浴室とトイレは一緒であり、家庭に2つ以上あることが多い。
交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・車は右側通行で、信号が赤でも右折できる交差点がある。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・10月の第2土曜日から3月の第2土曜日までが、サマータイム制（標準時より1時間早い）になっているので、夜を楽しむ人が多い。バカシオネス（夏の長期休暇）になると、大人はもちろん子どもたちも夜遅くまで遊んでいるのが見られる。 ・18歳から社会的に大人扱いになり、お酒や車の運転などが許可される。タバコに関しては日本と違い、法律で規制はされていない。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・サンチャゴ日本人学校（「月刊誌「海外子女教育」）・・・・・・・・海外子女教育財団
- ・チリの小学校・・・・・・・・・・・・・・・・白鷗大学研修生
- ・社会科副読本・・・・・・・・・・・・・・・・サンチャゴ日本人学校
- ・日本語指導教材の開発・・・・・・・・・・・・・・・・井上恵子
- ・海外日本人学校勤務経験教員より